（写真提供：石岡市商工観光課、撮影地：茨城県フラワーパーク展望塔付近）

今月の1枚

茨城県フラワーパークの桜と筑波山

2009（平成21）年1月、朝日新聞社と森林文化協会※1が全国から公募した4,474件の中から、未来へ残したい自然豊かな「にほんの里100選」※2のひとつに選ばれた筑波山麓の石岡市八郷地区。

軒を何層にも彩る粋な工夫を誇る「筑波流」といわれる茅葺きの民家が、現在70棟近く点在するのどかな里山風景が広がり、里としての歴史の古さ、豊かさを垣間見ることができる。

八郷地区の山々と緑に囲まれた緩やかな丘に、「科学万博つくば'85」を記念するとともに花卉（かき）農業の振興と更なる普及を目的に花と緑の公園として、茨城県と八郷町（現石岡市）が共同で建設に着手し、1985（昭和60）年6月2日、東京ドーム約4個分（約30ha）の広さに、750品種・3万株のバラが咲き誇る東日本最大級といわれるバラのテーマパークである「茨城県フラワーパーク」が開園した。

土浦市小野と石岡市柴内を結ぶ朝日トンネルや北関東自動車道の開通による観光客増加に対応するため、2010（平成22）年より、道の駅機能の充実や施設のシンボルである大温室を熱帯植物園からフラワードーム（花いっぱいの多目的ホール）へのリニューアルに取組んでいる。同ドームで「バラに囲まれた結婚式」を試みたり、駐車場内に地元食材の料理を堪能できるレストランをオープンするなど、観光客誘致に力を入れている。

春と秋には世界のバラが咲き競うバラのテラスをはじめ、福寿草、シャガ、やまゆりやクリスマスローズなど、毎月満開の花たちに出会えるほか、園芸教室などのイベントを開催したり、スポーツスライド（花のすべり台）やアスレチック設備も充実しており、地元農産物の直売所も併設している。

園内ルールを遵守する誓約書の提出でペットの入園も可能であり、大人から子供まで家族そろって豊かな四季を楽しむことができる憩いの場として多くの人々に親しまれており、石岡市を代表する観光スポットとして期待されている。

◆JR常磐線「石岡駅」より、約12km・バスで約30分
常磐自動車道「千代田石岡IC」より約14km・車で約20分
常磐自動車道「土浦北IC」より約13km・車で約15分
北関東自動車道「笠間西IC」より約17km・車で約25分

※1　朝日新聞社創刊100周年を記念して、1978（昭和53）年9月に設立した公益法人で、「山と木と人の共生」を基本理念として調査・研究、シンポジウム・講演会、野外セミナーなどの活動を続けている。

※2　朝日新聞社が2008年、朝日新聞創刊130周年と森林文化協会創立30周年の記念事業として、人の営みが育んだすこやかで美しい里を、①景観、②生物多様性、③人の営みの3要素を基準として、映画監督山田洋次氏を委員長とする選定委員会が、全国から100か所を選定した。